

敷地内浸潤散水処理資材

タコガード

家庭用浄化槽後処理用

設計注意事項

2015年10月版



大成工業株式会社

<http://www.taisei-kg.co.jp>

タフガードの設計における注意事項

タフガードの設計に際して以下の点にご注意ください。

タフガードは毛細管現象を利用して汚水を浸潤蒸発拡散処理するための装置です。設置面から地上面までの土壌を使用し、目詰まりの原因である有機物の分解除去も同時に行います。基本的に従来のトレンチとは異なります。

1. タフガードの規模算定

設計基準

汚水処理能力	100L/m・日以下
浸潤占有面積	50L/m ² ・日以下
流入BOD	120ppm 以下
流入SS	100ppm 以下

規模算定例)

合併浄化槽 5 人槽の場合 (但し、汚水量 200L/人・日)	
日処理水量	$5 \times 0.2 = 1.0\text{m}^3$
必要タフガード長	$1.0 \div 0.1 = 10.0\text{m}$

簡易算定表

人槽 (合併)	必要タフガード長
5 人槽	10.0m 以上
7 人槽	14.0m 以上
10 人槽	20.0m 以上

但しタフガードは 1.0m 単位での発注となります。

2. タフガード施工に必要な特殊部材

タフガードの設置にはFRP継手等、特殊な部材が必要です。参考図面に資材表をまとめております。ご覧ください。

3. 使用土壌について

基本的に弊社提供の通気性土壌をご使用ください。

現地土壌は組成にバラツキが多く、機能の保証をしかねます。

現地土壌をご使用になられる場合、土質の適性判断を施工業者様、または施主様が行ったものとし、万一トラブルが発生しましても原因のいかんを問わず、改修費用等の一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。

4. 敷地の選定

- ・風通しが良く適度な日照がある場所。
- ・設置場所が雨水などの溜まりやすい場所でないこと。(窪地でないこと)
- ・上部に建物などの構造物の設置予定がないこと。
- ・駐車場の予定地でないこと。

- ・斜面の直下は避けること。(下がり水があるため。)
- ・通路となる場所は避けること。

5. 配置の検討

- ・複数列に配置する場合は、基本的に各系列の長さを同じにすること。
- ・各系列の長さが異なる場合は、流末部を連結するなどして局所的な負荷を下げること。
- ・1系列に対する最大の長さは25mまでとすること。
- ・タフガード設置場所が水平であること。
(直列・並列・90度等、継手の組み合わせにより配置の自由度に幅があります。)

6. 装置上部の利用方法

- ・土壌にはタフガードから窒素・リンが供給されますので、様々な活用が可能です。
- ・上部の植栽は積極的に行ってください。但し芝などの地表面を覆ってしまうものは不可です。
- ・低木は問題ありませんが、タフガードの中心線より50cm程度離してください。

7. 雑排水処理について

厨房及び風呂洗面などの雑排水を処理するためには汚水中に含まれる油脂分及び毛髪等を可能な限り除去する必要があります。

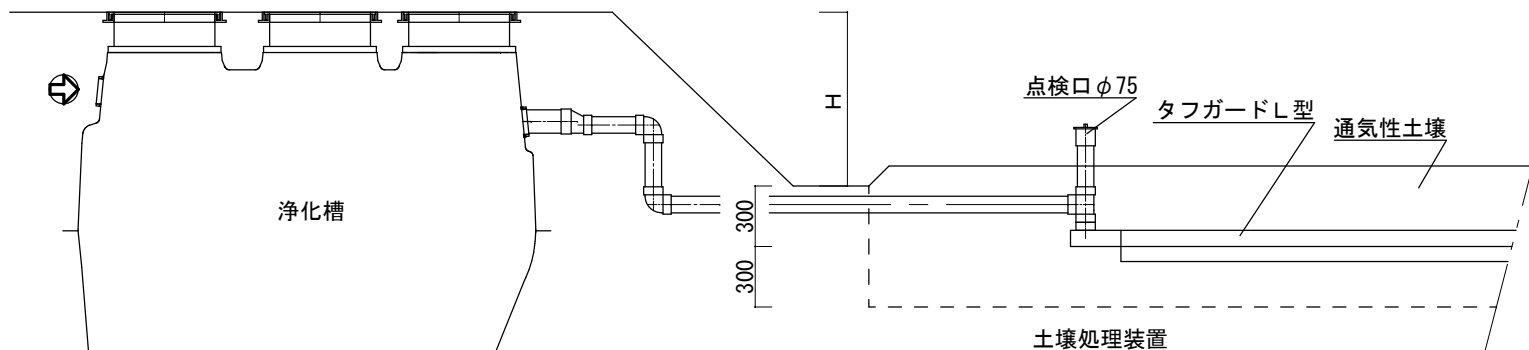
必要な長さはやはり1日の汚水量から算定いたします。

自然流下可能な落差の検討方法

浄化槽を設置するG Lと土壌処理を設置するG Lに自然流下可能な落差があればポンプ無しでの設置が可能になります。

自然流下可能な落差Hの算定式は次の通りです。

ポンプを使用しない場合は、参考図の返送管は必要ありません。



※) 傾斜の下がり水が土壌処理に入らないように、U字溝を設けるなどの防止策を行ってください。

自然流下可能な落差Hの算定式

$$H \geq \text{浄化槽流出管底} + \text{配管距離} \times 1/100$$

例) 浄化槽の流出管底がGL-500、配管距離が10mの場合

$$H \geq 500 + 10,000 \times 1/100$$

$$\geq 600\text{mm}$$

(分水柵を用いる場合は更に100mm落差が必要です。)

図名

タフガード施工例



大成工業株式会社

<http://www.taisei-kg.co.jp>